

令和5年度職員採用選考試験
看護 専門記述試験 (6.1.14)

= 課題 =

- 糖尿病性腎症から血液透析を導入した患者の看護について

事例を読み、次の質問について、それぞれ記述しなさい。

事例 A氏 53歳 男性

◆入院から治療まで

5年前に糖尿病と診断され、食事療法を指導された。しかし、仕事が忙しく、接待もたびたびで、ほとんど実践できていなかった。そのため、血糖コントロールは不良で、合併症の糖尿病性腎症も生じ、薬物療法が開始されたが、通院も続かず半年前から自己中断していた。3か月前から足がむくんだり、息が切れたりすることがあったが疲れているためと思い、様子を見ていた。

しかし、最近になって①むくみが強くなり、少し動くだけで息が切れ、横になるとかえって呼吸が苦しくなり寝ることも難しくなっていた。また、吐き気のために食事も困難となったため、やむなく受診した。

◆治療から退院に向けて

入院後に受けた血液透析によって、A氏の症状は改善されたが、今後の血液透析のため、入院中に内シャントが造設された。糖尿病のコントロール及び内シャントを使用した血液透析が可能となり、今後の透析は会社近くのクリニックで行うことになった。

A氏は、妻とともに②内シャントの管理方法や日常生活全般について看護師から指導を受けた。

- (1) A氏に生じている下線部①の症状についてメカニズムを説明しなさい。
- (2) A氏と妻に行われた下線部②の指導について具体的に説明しなさい。
- (3) 指導に同席した担当学生Bは、指導終了後にA氏が妻に「もっと早く病院に行けばよかった…」「今までのような生活や仕事はできない…」と話している様子が気になったが、どう声をかけたらよいか分からず指導者に相談に来た。

この実習は、成人看護学実習「回復期にある患者の看護」で、学生は3年課程の2年生後期である。あなたが実習指導者の場合、教育的な関わりとして最初にかかる具体的な声かけとその意図について述べなさい。